

## 第38回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日 時 平成30年5月15日（火） 10:00～11:30
2. 場 所 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
中須賀部会長、青木委員、下村委員、竝木委員、薬師寺委員、渡邊委員
  - (2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）  
高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、佐藤参事官
  - (3) 関係省庁等  
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長 轟田 将範
4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）
  - (1) 宇宙産業分野における人的基盤強化に関する取組状況について  
資料1に基づき経済産業省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。
    - 各国の人材の取組も注視しながら進めて頂きたい。例えば、アメリカは安全保障分野との結びつきが強く資金規模も大きい一方で、韓国などは資金規模が小さい中で小型衛星の分野で競争力を持っているなど、各国が特徴を持っている。人的基盤の強化に向けては日本のもつ特徴を捉えて、取組を進めて頂きたい。
    - 宇宙分野の人材流入促進のためには、教育面の取組も重要。例えば官需中心の産業構造を変化させるためには海外展開を担うような人材を鍛えていく必要がある。
    - 人材の受け皿となる宇宙産業の規模が大きくないことが課題の一つ。民間による宇宙探査など、今後の宇宙産業の拡大に期待。
  - (2) 部品に関する技術戦略の策定等に係る取組状況について  
工程表30番に基づき経済産業省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。
    - 経済産業省が整備した宇宙用の民生部品データベースにより、民生部品を安心して使うことができるため、非常に有用。

○民生部品は進歩が激しいので、データベースの維持・更新に期待。衛星開発側にとっては、進化していく民生部品をどう使っていくかも重要な課題。

○部品を宇宙実証までできていなくても、民生部品データベースを介してその手前までの実験・分析の情報が得られるため有用である。

(3) 知財戦略の策定に向けた検討に関する取組状況について

資料2に基づき経済産業省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○特許を取るという事は、他者に技術を知られるということであり、戦略的に取り組む必要がある。公開されると真似をされる恐れもあるため、特許の取得には注意も必要。

○一方で、「電気推進システムを搭載した衛星」や「地上に着陸し、再使用するロケット」など原理特許については、そのような特許が取られないよう注意する必要があると思われる。

(4) 宇宙基本計画工程表の改訂に向けた中間取りまとめについて

資料3および工程表に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○工程表34、再使用型宇宙輸送システムについては、世界の中で大きな動きがある中で、日本の立ち位置や進め方を再度検討していく必要があるのではないか。

○工程表39番、調査分析・戦略立案機能の強化については、日本の中での拠点づくりに取り組みたい。宇宙のすべてを網羅するというよりも、それぞれの専門分野で担うようなやり方が良いのではないか。

○工程表53番、スペースデブリはCOPUOSでも日本が主体的に提案しているところ。

以 上